

ハイブリッドレジンの特性を利用した ジーシー グラディアの臨床応用例



名古屋市名東区
オリオン クリエーティブ デンタルラボラトリー
堀尾浩彦

はじめに

有機無機質複合フィラーを含有するハイブリッドレジン、ここ数年定着してきているように思われる。特に臼歯部、インレー、アンレー、ジャケットクラウンなどの咬合接触を含むケースは天然歯の硬度や弾性率が近似することから、特に有効と考えられる。また、インプラントの上部構造体にも多く使用されるようになった。

そのなかでもジーシーグラディアは、有機無機質複合フィラーと2 μ m以下のマイクロフィラーを含有する高い粘弾性と、色調再現性を有することから年々世界的に評価が

上がっている。

また、接着に使用されるジーシー リンクマックスは2 μ mのガラスフィラーを含有するデュアルキュアタイプのフッ素徐放性を備えたレジメンでエナメル質と接着可能な驚異的なセメントである。またメタルプライマーⅡとコンポジットプライマーが同梱されており临床上遭遇するあらゆる条件にも対応している。

この2つのコンビネーションにより、より歯牙との一体化が可能となった。またその予知

性も高く臨床の枠も広がっている。

ミニマムインターベンションの概念や風潮が高まる中、高い色調再現性とリーズナブルな価格は患者の選択範囲も広がり、時代にマッチしていると思われる。

ハイブリッドの特性を利用した、グラディアの臨床応用例を報告する。



ジーシー ヨーロッパのパンフレット及び CD-ROM。



接着性レジメン リンクマックス。

症例1 歯質の保護とマージン部に配慮したグラディアインレー



1
1
4 | MODインレー 口腔内咬合面観。



1
2
ジーシー シリコーン印象材とフジロックによる作業模型。



1
3
口腔内頬側面。



1
4
模型頬側面。



1
5 頬側のマージンを延長し歯質の保護を計っている。



1
6 作業模型上。



1
7 咬合面全体。うすいグラディアでマージンを延長している。通常ポーセレンでは材質上不可能な場合が多い。



1
8 シェードガイドとの比較。頬側面の色調を合わせることは大変難しい。



1
9 Viva Stickなどでインレーを口腔内に運ぶ。



1
10 装着後。頬側マージン部の境界部の色調が、移行的である。



1
11



1
12

模型と口腔内との比較。1・12は、試適時の状態。

●模型上での注意点

- 1) 技工でのフィットは、支台歯ではバッシュフィット、模型上での隣接コンタクトはフロスなどを利用し、やや強めに設定する。
- 2) プラークの沈着し易い隣接面の研磨に細心の注意を払う。
- 3) 分離材、ワックスが残らないように接着面は湯洗いのみにたよらず、サンドブラスター処理をほどこす。

●チェアサイドでの注意点

- 1) 口腔内での咬合調整はセット後行う。マージンのチップ、異物の混入などを回避する。
- 2) 研磨は粒子の細かい、シリコーン系、ラバー系のポイントを使用する。
- 3) バージンな歯質はりん酸処理をほどこし接着性を高める。
- 4) レジンセメントの硬化促進に気をつける。特にプライマー塗布後は十分に乾燥し手

早く行う。

- 5) 隣接面のセメント除去や以上の点を踏まえたアシストが大変重要である。

症例2 インプラント上部の長期プロビジョナルブリッジ 76⑤4



2
1 歯科用グラスファイバーリボンを使用してブリッジの補強を図る。



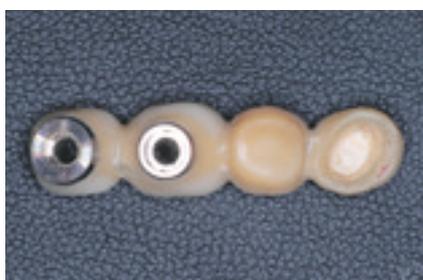
2
2 グラディアIC0(クリアー)を染み込ませながら連結する。



2
3 側面観。



2
4 グラディアを築盛・研磨、完成。



2
5 内面観。



2
6 咬合面観。



2
7 咬合器上。



2
8 口腔内。1年後。

症例3 グラディア ジャケットクラウン 5



3
1 口腔内支台の状態。

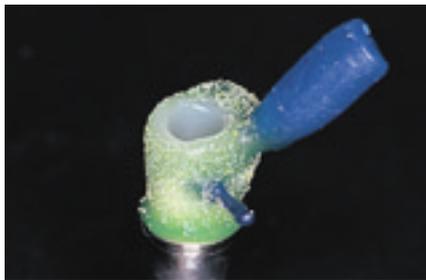


3
2 口腔内頬側面。5。



3
3 瑞々しい赤味のある色調も再現可能である。

症例4 インプラント上部 UCLA タイプ 6



4
・
1 技工ワックスアップ。



4
・
2 完成。咬合接触部、滑走部に注意する。



4
・
3 頬側面。



4
・
4 口腔内。



4
・
5 口腔内頬側。十分な艶が見られる。
6 グラディアインプラント。



4
・
6 口腔内。アクセスホールは試適後レジ
ン系仮封材などで封鎖される。

症例5 グラディア ジャケットクラウン 45



5
・
1 頬側面観。45。



5
・
2 咬合面観。
骨質感と強いコントラストのある色調も再
現可能である。

まとめ

ジーシー グラディアはご覧いただいた通り、色調再現性が大変に優れたハイブリッド材料です。また、このハイブリッドの特性を活かすことにより、臨床の応用範囲が広がっています。そして、臨床のケースによっては従来のセラミックスやメタルをも上回る成果を出しています。

このジーシー グラディアの色調再現性、

理工学特性、及び接着性レジンのリンクマックス、トータルでの完成度は非常に高く、この開発に携われた全ての方に敬意を表したいと思います。

最後に日頃から臨床ケースのご提供頂いています、春日井市開業・長谷川秀樹先生に深く感謝いたします。